

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
- ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 - ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
 - ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
 - ※4 5回線送電線(5バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し4回線(4バンク)分の容量を記載
 - ※5 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
 - ※6 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
- #1 基幹系ループ系統のため
 - #2 1回線送電線のため
 - #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 - #4 配電用変電所のため
 - #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
 - #6 2回線送電線の分割運用等のため
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。
- (6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方*に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。
- * https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html
- (7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (9) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開しておりません。
- (10)個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

〔12 中央、山家地区〕

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御 の可能性	平常時出力制御が必要となりうる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系等設備	
1	熊本幹線	500	2	6,580	3,290	熱容量	1,205	1,205	不可 #1	－	－	－	－	
2	脊振幹線	500	2	13,162	6,581	熱容量	5,823	5,823	不可 #1	－	－	－	－	
3	佐賀幹線	500	2	5,568	3,201	熱容量	865	0	不可 #1	－	有り	対象	－	基幹系統の安定度制約
4	山家線	220	2	2,448	1,407	熱容量	494	494	不可 #1	－	－	－	－	
5	山家東福岡線	220	2	2,470	1,296	熱容量	639	639	不可 #1	－	－	－	－	
6	山家JR九州二日市線	66	2	260	130	熱容量	130	130	可	129	－	－	－	
7	山家浮羽線	66	2	184	105	熱容量	64	64	可	78	－	－	－	
8	三輪分岐線	66	2	260	130	熱容量	107	64	可	130	－	－	－	上位系(送電線No.7 山家浮羽線 による制約)
9	山家甘木線	66	2	226	113	熱容量	95	95	可	113	－	－	－	
10	大刀洗分岐線	66	2	260	130	熱容量	118	95	可	130	－	－	－	上位系(送電線No.9 山家甘木線 による制約)
11	甘木田主丸線	66	2	239	105	熱容量	95	95	可	133	－	－	－	
12	二日市分岐線	66	2	260	130	熱容量	130	130	可	130	－	－	－	
13	夜明浮羽線	66	2	64	36	熱容量	36	36	可	27	－	－	－	
14	二日市2番線	22	1	16	16	熱容量	16	9	不可 #2	－	－	－	－	※1上位系(変圧器No.3-2 二日 市変電所)による制約
15	二日市3番線	22	1	16	16	熱容量	16	9	不可 #2	－	－	－	－	※1上位系(変圧器No.3-2 二日 市変電所)による制約
16	筑前線	22	1	16	16	熱容量	16	9	不可 #2	－	－	－	－	※1上位系(変圧器No.4-2 三輪 変電所)による制約
17	美奈宜線	22	1	16	16	熱容量	5	5	不可 #2	－	－	－	－	※1
18	浮羽2号線	22	1	16	16	熱容量	14	14	不可 #2	－	－	－	－	※1
19	甘木1号線	22	1	16	16	熱容量	16	16	不可 #2	－	－	－	－	※1

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
- ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 - ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
 - ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
 - ※4 5回線送電線(5バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し4回線(4バンク)分の容量を記載
 - ※5 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
 - ※6 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
- #1 基幹系ループ系統のため
 - #2 1回線送電線のため
 - #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 - #4 配電用変電所のため
 - #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
 - #6 2回線送電線の分割運用等のため
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。
- (6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方*に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。
- * https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html
- (7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (9) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開していません。
- (10)個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

〔12 中央、山家地区〕

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御 の可能性	平常時出力制御が必要となりうる設備		備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系等設備	
1	中央	500	220	3	2,850	2,375	熱容量	673	673	不可 #1	-	-	-	-	※2
2(1)	山家	220	66	2	475	296	熱容量	248	248	可	178	-	-	-	
2(2)	山家	66	6	2	38	38	熱容量	12	12	不可 #4	-	-	-	-	
3(1)	二日市	66	6	3	85	85	熱容量	28	28	不可 #4	-	-	-	-	
3(2)	二日市	66	22	3	38	38	熱容量	9	9	不可 #4	-	-	-	-	
4(1)	三輪	66	6	2	47	47	熱容量	15	15	不可 #4	-	-	-	-	
4(2)	三輪	66	22	1	19	19	熱容量	9	9	不可 #4	-	-	-	-	
5	大刀洗	66	6	2	38	38	熱容量	13	13	不可 #4	-	-	-	-	
6(1)	甘木	66	6	3	66	66	熱容量	13	13	不可 #4	-	-	-	-	
6(2)	甘木	66	22	1	19	19	熱容量	19	19	不可 #4	-	-	-	-	
7	田主丸	66	6	3	39	39	熱容量	6	6	不可 #4	-	-	-	-	
8(1)	浮羽	66	6	3	57	57	熱容量	11	11	不可 #4	-	-	-	-	
8(2)	浮羽	66	22	1	19	19	熱容量	17	17	不可 #4	-	-	-	-	
9	美奈宜	22	6	1	5	5	熱容量	0	0	不可 #4	-	-	-	-	